

◆俯瞰 MAIL 第 91 号◆

俯瞰工学研究所の松島克守のメールマガジンです。俯瞰 MAIL 第 91 号をお送りします。

◆時候のご挨拶◆

やっと梅雨が明けました。やはり夏はいいですね。冬とは違う心高ぶりを感じます。美味しい夏野菜が出回りますから、あれこれ野菜料理を思いつきます。ただこの夏も猛暑とゲリラ豪雨に見舞われるでしょう。

●英国が抜けた後の EU はどうなる

●ますます緊迫するイラン情勢と日本

●宇宙船地球号の危機

●俯瞰のクッキング“レイチェルの番組”

●俯瞰の書棚 “マクルーハンメッセージ”

●雑感・私感

◆英国が抜けた後の EU はどうなる◆

英国の新しい首相が決まりました。トランプ大統領とウマが合うということは、英国のトランプでしょうか。メイ首相に代わって EU と再交渉して、英国が受け入れられる条件を引き出すと言っていますが、EU は全く相手にしていません。総選挙であれば、離脱延期は認めるとも言っているようです。総選挙すれば、離脱反対派が勝利して国民投票に持ち込み、離脱そのものが卓袱台返しになる可能性もあります。となると、10 月末の合意なき離脱になります。

経済界や企業は、すでにハードブレグジットを覚悟して準備を進めていますが、大きな経済的な混乱は避けられません。現在は英国外のヨーロッパからの輸入には関税はありませんから、離脱後も輸入関税をゼロにすることも考えられます。ただ、EU が英国からの輸入関税をゼロにするかは、定かではありません。

アメリカは英国に FTA を呼びかけています。EU に嫌われたトランプ大統領ですが、ジョンソン首相との連携を強めていくでしょうし、英国も積極的に各国と連携して、経済圏を確保していくでしょう。日本とも FTA を結ぶことになると思います。

ただ英国は依然として経済大国です。GDP はドイツに次ぐ第 5 位で、フランスは第 6 位です。ちなみにイタリアは、インドの下第 8 位です。ですから EU の経済力は縮小します。影響力が落ちます。

加えて英国は、世界第 5 位の海軍国です。そして、核保有国です。フランスは、第 6 位の海軍国で核保有国です。日本と中国が、3位、4位です。EU の軍事力は、大きく弱体化します。ということは、ヨーロッパ、中近東への国際影響力、平和維持能力が弱まるということです。そしてヨーロッパに対するロシアの影響力は、相対的に強くなります。ドイツは、現在でも天然ガスの供給をロシアに依存していますから、ロシアと強く対峙できません。ウクライナ問題についても、何もできていません。中近東に対しても、ほとんど影響力を行使できません。

英国が抜けた後の EU が弱体化すると、世界の民主主義のリベラルの勢力が衰弱するのが大きな懸念です。世界を仕切るトランプ政権、中国共産党、ロシアのプーチン大統領は、いずれもリベラルを否定する強権国家です。中近東にはリベラルな国家は存在しません。東南アジアにおいても状況は同じです。

日本の野党勢力にも、まともなリベラルは存在しません。野党第一党の立憲民主党の主張も意味不明です。結果として、若人たちは自民党支持に傾いています。どのような形で政治に参画すべきか迷うばかりです。民主主義とリベラルは一体です。

英首相の「脅し」拒絶＝離脱案を堅持－EU

<https://www.ijji.com/jc/article?k=2019072600829&g=int>

ジョンソン英首相の EU 離脱、命運握るアイルランド

<https://jp.wsj.com/articles/SB11529455906466464454504585448583844686728>

世界の名目 GDP(USドル)ランキング

https://ecodb.net/ranking/imf_ngdpg.html#GB

世界海軍力ランキング

<https://news24-web.com/navy2019/>

EU 離脱後に FTA 交渉へ 米英首脳が電話会談

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO47869270X20C19A7MM0000/>

◆ますます緊迫するイラン情勢と日本◆

イラン情勢はますます緊迫しています。イランの英国タンカー拿捕で、ギリギリの線まで来ました。以前にも言及しましたが、イランはアラブではありません。誇り高いペルシャ語を話す、ペルシャ人の国です。しかも、中東においては大国です。イランと国境を接する国は親米ではなく、どちらかというど嫌みに近いです。トランプ大統領もアメリカ国民もイラク戦争のような無謀な戦争は考えられないでしょうが。

トランプ外交のような手法では、平和解決は無理でしょう。経済制裁といいますが、すでに長年にわたりアメリカの経済制裁で、経済は停滞しています。国民は、この状態に慣れているので

はないでしょうか。ある程度イラン国民は政府に不満を持っていると思いますが、現在の支配体制を否定するまでには至っていないと思います。

ここにきてアメリカは有志連合という枠組みを提案し、日本にも参加を求めています。トランプ大統領がいう「アメリカは中東の石油に依存しない。だから情報は提供するから、自分の国のタンカーは自分で守れ」は正論です。日本もこれは否定できないでしょう。国内法の関係で参加が難しいという議論はありますが、湾岸戦争の時のように金で済ますこともできません。

アメリカが提案する有志連合には、ヨーロッパ諸国も腰が引けています。英国は、すでに自国のタンカーを拿捕されていますから、引く事はできません。世界第5位の海軍力をもってしても、英国だけではホルムズ海峡の安全は確保できません。したがってヨーロッパを中心とした有志連合を模索していますが、ドイツは乗ってこないようです。

日本はハムレット状態です。アメリカが提案する有志連合に乗れば、イランと敵対することになり、永年築き上げたイランとの友好関係が破綻します。自衛隊を派遣しても、他国の艦船の支援ができないのであれば、有志連合になりません。無論、半自動的に他国の艦船を含めた紛争に巻き込まれる事は、日本が最も恐れている「戦争」ですから、日本にとって憲法改正に匹敵する大問題です。

ことの起こりはトランプ大統領です。選挙ファーストで、ユダヤ系の票をなんとしても欲しいためにイスラエルに異常に入れ込んで、なんとか維持してきた「積み木の家」のようなイラン核合意を一方向的に破棄し、このイラン危機をつくりました。トランプ大統領のイスラエル中心の中東政策は、パレスチナ和平も崩壊させつつあります。やはり、トランプ再選はなんとしても避けたいですね。

「原油密輸タンカーを拿捕した」イランの2つの狙い

<https://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2019/07/post-12589.php>

イラン、「CIAスパイを逮捕、死刑宣告」と 米政府は否定

<https://www.bbc.com/japanese/49079525>

米、有志連合協力要請強める＝日本を名指しでけん制

<https://www.jiji.com/jc/article?k=2019072700254&g=int>

◆宇宙船地球号の危機◆

最近ヨーロッパを襲っている猛暑は、ただ事ではないと感じさせられます。北欧を含めたヨーロッパの森林で、熱波のために山林火災が頻発していることが報じられています。これまで、南

部で頻発していたフランスでは、パリ近郊までその危険が迫っているとのこと。さらに、北のスウェーデンでも熱波による山林火災が頻発しているということに衝撃を受けました。

グリーンランドの氷床融解も気になります。異常な速度で氷床融解が進んでおり、これによる海面の上昇が陸地を水没させます。

気象庁のホームページに、世界の異常気象情報がありました。世界中いたるところで異常気象と災害が発生しています。明らかに地球環境が危機的状況にあることを実感しました。すぐには効果がないまでも、早急に人類として行動を起こさないと大変なことになります。

この状況に逆走するトランプ政権の、無責任かつ自己ファーストの姿勢に腹が立ちます。無論アメリカにも良識のある政治家をいます。カルフォルニア州は、トランプ政権が規制緩和した自動車の排ガス規制に、独自の厳しい基準を適用しています。中国も環境保全に力を入れて、自動車のEV化を強力に推進しています。

ただ、世界中で石炭火力発電はものすごい規模で二酸化炭素を放出しています。あの環境保全にうるさいドイツでも、未だに発電の4割は石炭火力で、やっと2038年までに廃止の決定をしたばかりです。

この異常気象は、農業という食料生産に大きな被害を与えています。さらに世界人口の爆発的な増加を重ねると、食料の争奪で紛争が勃発して国際平和の危機が来る可能性があります。

かつて世界人口は30億人でしたが、すでに現在70億人、そして90億人になると予測されています。この人類に食料を供給するために、アマゾンの熱帯雨林も農地を確保するために次々と切り開かれています。二酸化炭素を吸収する森が消滅していくわけです。

こう考えると、人類の未来は悲観的になります。しかし今、自分が何をすべきかと考えてもこれだと思いつくことがありません。あまり車に乗らない、節電する、食品を無駄にしない、などは意識していますが。大型の社用車を乗り回す経営者に対する社会の目も厳しくなっていくでしょう。

欧州で記録的猛暑 パリは中東並み42度

<https://www.asahi.com/articles/ASM7V1QD8M7VUHBI001.html>

ヨーロッパの山火事の拡大が制御不能へ

<https://earthreview.net/heat-wave-and-wildfires-rage-across-europe/>

世界の年ごとの異常気象

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/monitor/annual/>

グリーンランドの氷床融解、10年で4倍に加速

<https://www.afpbb.com/articles/-/3207711>

トランプ政権とカリフォルニア州、燃費規制巡る交渉決裂―法廷闘争も

<https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2019-02-22/PNB3AC6TTDS001>

ドイツ、石炭火力発電全廃へ 38年まで政府委合意

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO40529680W9A120C1EA5000/>

◆最新のデジタル機器の導入◆

時代に取り残されないために、最新のデジタル機器を導入するようにしています。すでに我が家のリビングルームには Amazon echo が導入されていて、ライトとスタンドは音声でオンオフができていますし、前回ご紹介したように、オーディオシステムも音声で操作できるようになっています。

キッチンには小さな Amazon の Alexa があり、予定を確かめたり、天気予報を聞いたりしていましたが、スクリーン付きの EchoShow 5 というスマートスピーカーが新発売になったので購入しました。スマートスピーカーに画面がつくと、まったく別の機器になりました。まずデジタル時計の機能がありますから、質問しなくても時刻を確認できます。デジタル時計と違うのは時間表示をずっとしているのではなく、予定やニュースなどを一定の間隔で表示してくれます。そして、うるさく質問をねだってきます。Amazon は人工知能が作れない「質問」を集めたいのです。黙って聞き耳を立てていただけのスマートスピーカーが別な機器に生まれ変わったわけです。

次はドライブレコーダーです。最近、煽り運転抑止のためにドライブレコーダーの導入が進んでいるようですが、私も車に付けてみました。最新型の“コムテック 前後 2カメラ ドライブレコーダー ZDR026”です。Amazon で買いました。ディーラーの約半額です。

取り付けは、出張サービスがありましたのでお願いしました。2万円くらいです。頼んで良かったとつくづく思いました。作業をずっと見ていましたが、車の中には配線を通すルートが用意されていることを始めて知りました。フロントガラスから後部の窓まで綺麗に配線されました。

驚いたのはその機能です。簡単な人工知能の機能が搭載されているようです。画像を単に記録するのではなく、画像処理でいろいろな監視をしてドライバーに注意を喚起します。「信号を確認してください」そして「近傍車を確認してください」ですが、「近傍車」は最初聞き取れませんでした。何度も聴いているうちに「近くの車を確認してください」だと解りました。「近傍車」は目で見ればわかりますが、耳から聞いても分かりませんでした。

加速度センサも付いているようで、「急ハンドルを検知しました」とか「急加速を検知しました」と注意してくれます。安全運転の技術が向上しそうです。最高スピードも設定しておく、音で知らせます。他にも機能があるのかもしれませんが、現在はここまでです。

◆俯瞰のクッキング “レイチェルの番組” ◆

ネットフレックスの番組に「レイチェルの小さなレストラン」があります。この番組に最近ハマっています。ロンドンから来た女性のシェフがパリでフランス料理を修行して、お客一組だけの小さなレストランを開いているという想定のレストラン番組です。これがすごく楽しくて、見ていると思わずヨダレが出そうな気持ちになり、美味しい料理を作ろうという意欲をかきたててくれます。本当に小さなキッチンでいろんな料理を作っています。市場での買い付けの場面も面白いです。

エピソードをいくつか見ていると、フランス料理の本質が見えてきます。まず生クリームとバターの使い方が中途半端ではありません。チーズもいろいろたくさん使います。デザートを非常に大切にしています。ですから砂糖もたっぷりです。最近の日本でのヘルシーなフランス料理のようなものはほとんどありません。本人も少し太り気味です。

料理の中で「ビーツのロースト」が簡単で美味しそうだったので作ってみました。気を引いた一つが「バルサミコグレース」という聞いたことがないソースだったからです。市販品もありますが、かなり高いです。下記のレシピで作りました。

材料

バルサミコ酢 60cc
オイスターソース 大さじ 1
ウスターソース 大さじ 1
赤ワイン 大さじ 3
はちみつ 大さじ 1
しょう油 小さじ 1

作り方

全材料を厚手の鍋に入れ、火にかける。
とろみがつくまで、ソース程度に煮詰まったらでき上がり。

と、すごく簡単です。ビーツはローストではなく、電子レンジで皮ごと 8 分程度加熱して、竹串を指して中まで柔らかくなっているか確認しました。そして皮をむいて、短冊型に切りました。これにバルサミコグレースをかけて食べました。不思議な味がしました。和食とは別世界の味でした。

いろいろ料理に使われているようで、アイスクリームにかけても美味しそうです。ともかく、また新しい料理の世界を知りました。

レイチェルの番組はNHKのEテレの番組としてもあります。「レイチェルのおいしい旅レシピ」です。この番組はネットフレックスよりもっと面白いです。レイチェルが、食材や料理で有名な観光地を訪ねて、その食材と料理を紹介する構成です。観光地の紹介の部分が、まさに「旅のレシピ」で行ってみたいと思わせます。そして、そこで紹介されたレストランに行きたいと思わせる番組です。

ちなみに我が家は“PanasonicDMR-BW970”で10チャンネル、一週間自動録画ですから、いつでも好きな番組を視聴することができます。リアルタイムで見る、録画予約する、という世界の先の世界です。ハードデスクの低価格化という恩恵を享受しています。

バルサミコグレース

<https://cookpad.com/recipe/2287866>

◆俯瞰の書棚“マクルーハンメッセージ”◆

今回は「マクルーハンメッセージ メディアとテクノロジーの未来はどこへ向かうのか？」服部桂 イースト・プレス 2018 です。

この本は永年、朝日新聞社で最新テクノロジー取材して、社会を啓発してきた服部桂さんが「インターネットの未来」という重いテーマを追求するために、永年研究されてきたマクルーハンを改めて見直した本だと思います。マクルーハンの再評価です。

著者によると、“本書の構成は4章から成る。第1章では『ゲーテンベルクの銀河系』や『メディア論』を基にマクルーハンの理論を、第2章ではマクルーハンの人物像と彼に対する社会の評価を、また第3章ではマクルーハンの理論に従って、インターネットの作り出す世界を理解する試みを行ってみた。そして第4章では、2011年に生誕100年を迎えたマクルーハンの現在と未来について、新たに考察を加えてみた”です。

第一章から第三章までは、2001年出版の『メディアの予言者マクルーハン再発見』の内容です。第四章が今回、書き下ろした部分です。この間20年間の時代の変化のためか、それとも、ご本人の「認識の構造の進化、深化」のためか、全く文章の勢いが違います。第四章はインターネットの未来を凝視するオーラが伝わってくる文体です。

冒頭部分で興味を引いたのは“マクルーハンがメディアが環境化するとその影響が見えなくなることを指摘し、その環境を意識させて見えるものにしてくれるのは現在の環境に対抗する「反環境」としての芸術しかない」と述べている。そうした芸術はそれを感じ取った芸術家の感性を通して形となり、理路整然と変化の理由を説明してくれるというより、我々を仰天させるような仕方で世に現れては論争を巻き起こす。キュビズムは結局、19世紀末から20世紀初頭にかけて、空間認識を大きく変えるメディアの発明によって生じた感性の歪みを、いち早く形にして表現したものと考えられている。”のくだりです。時代の変化を論理的に解説する有識者ではなく、直感的に表現した芸術家に注目せよということです。

マクルーハンは、私の二十代の頃に、テレビや広告関係者の注目を引いて、すごく人気があった竹村健一さんというパイプを啜った評論家がよく口にしていましたが、マクルーハンの著作は読んだことがなかったので、第一章と第二章の解説を読んでキャッチアップできました。多分、当時の自分では、読んでもどこまで理解できたか疑問です。インターネットというメディアを知らずして、マクルーハンの言っていることを理解できなかったでしょう。

『ゲーテンベルクの銀河系』で論じられていることは、本書の下記のフレーズではないでしょうか。

“活字文化よりはるか以前の文字のない声が支配した原始時代、それに続くアルファベットの発明と写本の時代、活字印刷の時代、そしてそれ以降の電子メディアの時代を対比させて、それら4つの時代を特徴付けたメディアの特性の違いを明らかにしていった。”

“活版印刷が当時どれほどのインパクトを与えたかは想像に難いが、それが半世紀の間に何千万冊もの本を生み出し、さらには16世紀末までに聖書だけで2億冊が作られたと言われ、当時の人口を考え合わせると驚異的な普及があったことは間違いないだろう。それは眠っていた知識や創造性に火をつけルネッサンスを开花させるエンジンになったが、これは現在のインターネットのサイトの爆発的な増加にも通じるものがある。”

“活版印刷が変えた最も大きなものは、世界観の変革だった。マクルーハンは英国の詩人ウィリアム・ブレイクの「われわれは、われわれが視るところのものになる」という言葉をよく引用するが、テクノロジーはそれを使う者自身を逆に変容させる。”

“『ゲーテンベルクの銀河系』で提示される活字世界の姿とは、視覚に偏った本のように直線的で機械的な繰り返しを基調とした均質なりニアな世界で、近代の合理性や国家主義的なまとまりをもたらした一方で、個人主義の発見と同時に人間の全感覚的な世界との関わりを失わせるものだった。”

そして、この本から『メディア論』を読み解けば、下記のフレーズでしょうか。

“有名な「メディアはメッセージである」という言葉は、メディアはそれぞれ固有の性質を持ちそれに注目すべきだという意味だが、「メディアこそがメッセージである」とも読め、マクルーハンのメディア学者としての宣言文とも言える言葉だ。”

“マクルーハンはこの言葉で、フロイトのようにわれわれの「無意識」と化したメディアに注意を向けるよう促し、またメディアを意識せずに、そこに盛られているコンテンツに惑わされている、人間は「壁のない牢獄」につながれ、それに溺れてメディアの中で夢遊病者のように暮らすことになる、と警告を発している。マクルーハンにとって、メディアとは人間の身体や感覚(もしくはその元になる神経系)を、それらの及ぶ範囲から先に拡張してくれるものすべてを指す。「メディアとは人間の身体や感覚を拡張するものだ」という言明は、胸の奥で何かを弾けさせました。

“マクルーハンによれば、メディアはわれわれ自身を拡張すると同時に、それが作り出す環境の中にわれわれを包み込んで麻痺させてしまうという。”

“テレビ映像が衛星で世界同時にリアルタイムで流れ始めた時期に、マクルーハンが示した「グローバル・ビレッジ」という言葉は、実感として非常に受け入れやすいものだった。”

“マクルーハンは広告を現代アートの一形態と捉え、広告が一般大衆に与える影響を、詩が読者の心にある状態を作り出すのと同じであると考えていた。”

これ以上は直接読んでいただきたい。そして「インターネットの未来」を著者の目線で確認したらいかがでしょう。

本の最後に著者が選んだマクルーハンの 100 言明が紹介されています。その中から、いくつかご紹介しましょう。

41: ニュースはアート以上に人工的だ。

47: 車輪は足の、本は目の、服は皮膚の拡張であり、電子回路は中枢神経系の拡張だ。

61: 電信という電子的な形式が活字や輪転機と交差することで、近代の新聞が生まれた。

73: 写真は不思議なもの見慣れないものと出会うという旅行の目的を逆転してしまった。

84: ある組織内で地位が上がれば上がった人ほど、早く落ちこぼれになる。なぜなら彼はより現場から離れていくからだ。

99: われわれはバックミラーを通して現在を見ており、未来に向かって後ろ向きに進んでいる。

◆雑感・私感◆

以上も雑感・私感ですが、できる限り参照データを紹介しています。個人のブログは面白いですが個人的な偏りがありますからできるだけメジャーなメディアを引用しています。

日韓関係はまさに泥沼です。文政権のこれまでの言動は国民の反日感情を煽ることによって求心力を追求してきました。そしてまた日本品不買運動を煽っていますが、ますます外交的な出口から遠のきます。日本はアメリカの理解を確認しながら辛抱強く対応するしかありません。

アメリカと北朝鮮の非核化交渉の進展はありません。北朝鮮に非核化の意思はありませんから、まとまらないでしょう。北朝鮮はトランプ大統領の選挙戦にはあまり寄与しませんから、ご本人はすでに交渉をまとめる意欲は薄らいでいるでしょう。ポンペイオ国務長官は陸軍士官学校出身の元軍人ですので、安易な妥協はさせないと信じてみますが。

トルコとアメリカの対立は結果として NATO の弱体化になります。このままいけばトルコは NATO から脱退するかもしれません。という事は、ロシアにとって非常に大きな外交戦の勝利です。もともと対ソ連との冷戦の最前線として、NATO のトルコは位置づけられてきましたから。トランプ大統領はまた経済制裁を持ち出すでしょう。基軸通貨のドルこそが核兵器以上の最終兵器です。

米中の貿易交渉もなかなか進展しませんが、中国のねばり腰の交渉の中で、選挙が近づくとトランプ大統領はあるところで手打ちをして、自分の成果として支持層にアピールするという流れになるのでしょうか。

◆内容・記事に関するご意見・お問い合わせ/配信解除・メールアドレス変更は下記まで
webmaster@fukan.jp

◆俯瞰 MAIL91 号(2019 年 7 月 30 日)
発行元:一般社団法人俯瞰工学研究所
発行人:松島克守
編集長:松島克守
配信人:石川公子
URL:<https://www.fukan.jp/>
